



Make Dreams Real

「夢をかたちに」

2008-2009 年度 RI テーマ

国際ロータリー会長 李東建

第 2640 地区ガバナー勝野 露観



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1562 回例会 21 年 3 月 2 日 (月)

18:30 ~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱 「君が代」
3. ロータリーソング 「奉仕の理想」
4. ゲスト紹介 財団奨学生 ニルダ様

5. 出席報告

会員総数 68 名 出席者数 43 名 出席免除会員 1 名
出席率 63.24% 前回修正出席率 75%

6. 会長スピーチ

会長 宮田貞三君
皆様今晚は。

ニルダさんは来日されて 5ヶ月が過ぎ、今日が最後の例会出席となります。後程お別れのスピーチをお願いします。ニルダさんは土曜日紀美野の医王寺の奥さんにお世話になり、お茶、お



花、そして着物を着せていただいたそうです。小椋さん、花田さん、坂口さん、御苦労様でした。

明日から花田さん、林さん、坂口さんがフィリピンのルバング島へ海南西RC、マニラRCとWCSの共同プロジェクトである、太陽光を利用した飲料水の殺菌装置の設置の為に出発されます。よろしくお願ひします。

3月に入り、私の任期残り4ヶ月となりましたが、まだまだ事業の方も沢山あり、引き続き御協力お願ひします。今年は桜の開花が早くなりそうです。マンサクの花も昨年より1週間早く咲いたそうです。マンサクは春の訪れを他の花にさきがけて先ず咲くので、“マンサク” 又はその年の豊年満作をこの花の咲き具合で占うのでマンサクとついたらとも言

われています。マンサクの占いでは今年は春が早く、夏は長くて暑い夏になりそうです。

さて、これからアジアでどの国が伸びるか占ってみたいと思います。昨年アメリカ発の金融危機を受けて今後伸びていく国はブラジル、ロシア、そしてアジアの中国、インドの4ヶ国だと言われています。中でもインドは人口11億7000万人、グローバル化に伴い、世界経済、株式市場、為替市場も眠る事なく働いています。その為、アメリカのビジネスパートナーとして、インドはアメリカとの時差が12時間あるため、インドにコールセンターを置くと24時間企業が働くこととなります。インド人はコンピューターにも数字にも強いので、インドにコールセンターを置くアメリカの企業が多くあり、休むことなく企業は働いています。それに比べて日本では、今年の正月は8日間、5月は5日間、9月も5日間、国も自治体も銀行も企業も一斉に続けて休みを取りません。世界で何が起こるかわからない時代に、すばやく適切な判断が必要な時代に、一国だけゆっくりしていてよいのか気になります。インド工科大学は大変優秀なインドの学生が集まる所です。5,000人の合格者に30万人が受験、倍率60倍です。日本の共通一次試験の総受験者数が54万人で、日本の学生に割り当てると6割の学生がインド工科大学一校を目指している事になります。大変な競争率です。卒業すると初任給が1,000万円を越える学生もいます。インドでは人口の内15歳以下の子供が30%を占めて若い人が多く、将来まだまだ成長する力を秘めている。ちなみに日本人は15%、中国は一人っ子政策を取っている為に子供の数が少ないので、このままいくと2050年、インドは16億人になり、中国を追い越し、人口世界一になり、21世紀はインドの時代になるかも知れません。私達はインドについてもっと勉強し、よく知っておく必要があります。インドには、既に世界一のものがあります。マンゴーの生産量です。世界で生産量の多い果実を順にあげれば、オレンジ類、バナナ、ブドウ、リンゴ、そしてマンゴーです。5大果実の中にマンゴーが入っています。インド産は2年位前から日本に輸入されるようになり、フィリピンの黄色いマンゴーから、最近人気の宮崎マンゴー、甘くて濃い香り、高価な完熟マンゴーまで色々あります。マンゴーの大ブームは、生活が豊

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深められるか
- ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 宮田 貞三 幹事: 山田 耕造 SAA: 阪口 洋一

<http://www.kainaneast-rc.jp>E-mail: info@kainaneast-rc.jp

す。R I と財団の運営費はほとんどの分野で予算を下回る好ましい状況を維持しており、この状況は本会計年度末まで持続すると見込まれています。また、世界ポリオ撲滅活動において喜ばしい展開がありました。

ビル・ゲイツ財団から、2007年の1億ドルの補助金に加え、ロータリー財団に対して2億5,500万ドルの補助金が新たに寄せられました。この補助金は2012年6月30日までにロータリーも独自に合計2億ドルを拠出し、上乘せしてポリオ撲滅に充てるのが条件とされています。現在までに、ロータリアンは現金と寄付誓約の形で約7,300万ドルを集めています。このような不況下にあっても2億ドルの目標の3分の1以上を達成していることは、ポリオ撲滅に対するロータリアンの固い決意を物語っているものと言えます。エド・フタ事務総長

読み書きができるように（識字率向上）

日本では、読み書きができるということは当たり前のことのように思われています。しかし、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいるのです。読み書きができなければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではありません。例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのかわからないのです。

ロータリーでは、全世界のすべての人たちが、読み書きができるよう、識字率が向上するように、さまざまな活動をしています。発展途上国のへき地の村に学校を建てたり、教科書や鉛筆、ノートなどを送ったりしています。文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字を理解できない人がたくさんいます。おかあさんが読み書きできるようになると、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くこともできるようになります。このような理由から、ロータリーでは、成人女性に対する教育も支援しています。



幼児用読み書きセットを贈る

幼児用読み書きセットを贈るオーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がCLE（Concerned Language Encounter）という言語教育法を開発しました。ウォーカー博士はロータリアン（ロータリークラブの会員）です。CLEというのは、例えば、子どもたちなら画用紙からお面をつくらったり、人形をつくらったりという簡単な工作をしながら文字を教えます。成人の女性なら、料理や裁縫、手工芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、そういった作業をしながら文字を学んでいきます。楽しいこと、実益に結びつくようなことと

もに文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。また、費用も少なく、短い期間で学ぶことができます。したがって、多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。文字が読めないと良い仕事に就くことができず、生活は貧しくなります。貧しいが故に、その子どもたちは学校に通うことができず、文字を覚えることもできません。そして、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを強いられます。こうした貧困の連鎖を断ち切るためにも、ロータリアンたちは、世界中のいろいろな地域で、すべての人たちが読み書きできるよう、活動を続けています。



ロータリー財団の研究グループ交換（GSE）は、事業や専門職務経験の浅い25歳から40歳までの人々に、海外の文化と職業に関する交流の機会を与えるものです。このプログラムは、異なる国のチームが組み合わせられ、相互訪問するための旅行補助金を

提供します。約1ヶ月間にわたり、チームメンバーは滞在国の文化や制度を体験し、自分と同じ職業が海外でどのように実践されているかを観察しながら、意見交換をしたり、個人的な関係や専門職業人としての関係を築いたりします。

応募人数 4名

応募資格 年齢が25才から40才まで

日常の英会話ができること

現職に少なくとも2年以上勤務

派遣地区（2640地区）内に居住又は勤務していること

国際交流と奉仕活動に積極的であること

他の条件は、下記のURLで確認してください

参加費用

往復の航空運賃は国際ロータリーが負担

現地滞在費は現地ロータリークラブが負担
制服は支給される

旅行期間中の障害保険料は自己負担となります

出発までの期間にロータリーが実施する月に1・2度のオリエンテーションに出席する義務があります

締め切り 3月15日

面接選考 3月22日

申込書などの詳細は下記URLを参照して下さい。

<http://www.rotary.org/ja/serviceandfellowship/Fellowship/GroupStudyExchange/Pages/ridefault.aspx>